

芦安中学校（後期）自己評価書

平成 29 年 1 月 24 日
南アルプス市立芦安中学校
校長 藤巻 孝也

1 後期自己評価の経過

- (1) 後期教職員対象アンケート及び生徒対象アンケート及び保護者対象アンケートの実施（12月）
- (2) アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（1月6日）

2 学校評価の分析と改善方策

（1）教育目標

〔達成状況〕

- ① 本年度夏季休業以降の教育活動を振り返った時、各活動が学校教育目標に沿って実施されており、行事等も3年の入試関係や年度末関係を除くと、この2学期末までで主要なものを無事終了した。成果や達成状況も個々の事後アンケートや感想から読み取ることができるが、前期と比べても概ね良好な状況にあると言える。昨年度同期と比較しても評価は高くなっている。

〔改善策〕

- ① 格段に劣る項目が見当たらないので、今後とも全職員で学校教育目標を意識し理解しあって、目標の達成に向けて、「芦中教育」としての日々の教育活動に組織的・継続的に取り組んでいきたい。

（2）学校運営

〔達成状況〕

- ① 「校務分掌が機能しているか」については、昨年度同期に比べ、評価はやや高くなってきている。「職員会議」についても学校運営上ほぼ適切に運営されていると言える。
- ② 校内研究については、2つの柱（英会話科と英会話活動の推進・発展、言語活動の充実・発展）を中心に取り組んでいる。「英会話科」では、全職員で指導にあたった。4年目となり、小学校からの積み上げや過去3年間の成果から生徒の英会話科に対する意欲や姿勢は良好である。英会話科の授業にとどまらず学校生活の一部として英語を使うなど、日常化できる取り組みを継続してきた。また、実践的コミュニケーション能力育成のために、留学生との英会話のやり取りに力を入れてきて生徒の意欲も高まっている。10月11日には南アルプス市教育委員会から指導主事を招聘し、全職員による指導、実践的コミュニケーション能力育成の方向性について確認した。一方、「言語活動の充実」では、教科のねらいを達成させるため、意図的に「言語活動」を設定し、より深い思考になるよう指導力の向上に努めた。南アルプス市教育委員会から9月26日には指導監を招聘し、数学科における言語活動の指導を受けた。
また、相互の授業参観を企画し、意見交換する中で「言語活動の充実」に努めた。
- ③ 「報告・連絡・相談」はかなり機能していると言える。しかし、対外的なことや重要事項については更にきめ細かく「報告・連絡・相談」を機能させていく必要性を感じる。

〔改善策〕

- ① 3学期以降も少ない職員がいくつもの分掌を抱えているが、職員同士が連携を取りながら、学校運営にあたっていきたい。1, 2学期の全職員による指導での成果を確認し、相互補完しながら学校全体で取り組む意識を更に高めたい。
- ② 「英会話科」については、情報や自分の考えを形成・整理・再構築し、伝え合うことにより、より深い学びになるような研究を更に進めたい。
「言語活動の充実」他、授業力向上については、小規模校ならではの利点を更に追求していく必要がある。教室に数名という恵まれた環境を生かす指導法を更に研究していく。また、全国学力・学習状況調査や県学力把握調査での課題解決のための「一校一実践」「一人一実践」の充実に努め、定期的な検証をする中で、生徒に深い学びを提供していきたい。
- ③ 教育活動が常に全職員周知の中で進められるよう、更に、相談・協議し、教職員が高め合える職員室にしていきたい。そのために運営会議や特設職員会議の充実も図っていきたい。

（3）学習指導

〔達成状況〕

- ① 「授業の進度」については、どの教科も良好であった。しっかりした授業計画と授業時間の確保の結果であると思われる。
- ② 授業に関して、「授業には、意欲的に取り組んでいますか」「授業では、友だちと学び合う学習活動をしていますか」という項目においては、生徒の評価は昨年度より向上している。一方、「授業は、わかりやすいですか」はわずかながら昨年度より後退している。アンケートの記述からは、2学期になって学習内容が難しくなったことが理由としてあげられているが、生徒の学習内容の理解度等を把握した授業を展開する必要がある。教師の評価も「あなたは、生徒の関心意欲を高める授業をすすめている」「あなたは、生徒が主体的に学ぶ課題解決的な学習を行っている」「あなたは、生徒が学び合う授業を展開している」「あなたは、個に配慮した授業をすすめている」のすべての項目で昨年度より向上している。日頃から授業に対する意識を高く持って取り組んだ結果であると言える。
- ③ 道徳については、教育課程にそった授業は今まで通りにしっかり行い、『私たちの道徳』を活用することを心がけた。しかし、道徳の授業で「心から考えたり感じたりしていますか」について、教師側が肯定的であるのに対し、昨年度同様、生徒に若干の否定的評価がある。道徳の教科化に向けて、これからも計画的に取り組みつつ、常に踏み込んだ検証が必要である。
- ④ 「総合的な学習の時間」についても生徒に若干の否定的評価が見られる。教師側の評価は肯定的であるが、生徒の力を引き出すための改善が必要である。また、「総合的な学習の時間」のねらいについてももう一度生徒と確認し合うことも必要である。
- ⑤ 英会話科の授業については、これまでの指導を振り返り、「全職員で指導にあたる英会話科」「実践的コミュニケーション能力の育成」「グループディスカッション」などを柱に2学期から、見直しと改善をしてきた。記述からは、生徒・教師ともに「英会話科」について方向性を持ち、真剣に取り組んだ様子がうかがえる。
- ⑥ 「個に配慮した授業」については少人数の環境を生かした授業形態の工夫や個の考えを重視した授

業が展開できるよう取り組んできた。また、複数の教師を配置してのTT授業、1クラスを2グループにわけて、それぞれに教師がついて指導にあたる体制も取り入れた。

- ⑦ 家庭学習については、PTA総会での「家庭学習の手引き」を用いてのお願い、学級通信等で発信はしているが、生徒アンケート「宿題の他にも家庭学習をしていますか。」及び保護者アンケートの「お子さんは家庭学習をしていますか。」ともに数値が低く、家庭学習が定着していない現状がみられる。

〔改善策〕

- ① 全国学力学習状況調査や県学力把握調査の結果等を分析し、生徒個々と本校の課題を把握する中で、PDCAサイクルの手法によって全教師で授業改善を進めてきた。今年度取り組んだ「相互の授業参観」や「全教師による英会話科の指導」は継続していきたい。また、3回にわたり外部講師（指導主事）を招聘して指導を受けたが、より多角的な手立てや検証の過程において、非常に効果的であったので継続していきたい。前期評価の時にも触れたが、少人数であるので正答率よりも生徒一人一人の学力向上につながる指導を全職員で模索していきたい。
- ② 道徳の教科化に向けた研究を進める中で、「議論する道徳」「考えを深める道徳」に視点をあて、道徳の時間だけでなく、学校の内外の機会を通して「しなやかな心」の育成にあたる。道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるために、学校教育全体を通して指導を行っていく。特に本校では「全校登山」という他校にはない自然体験活動（集団宿泊活動）があるので、「しなやかな心の育成」という視点で改めてスポットをあてて取り組んでいきたい。
- ③ 「総合的な学習の時間」の取組が充実した学校では、学力も高いと言われる。本校の特色とも言える体験活動等の取組を更に充実させ、各教科等で培った力を「総合的な学習の時間」の中で活用させるなど、各教科等を横断した力を身に付けさせるため、今まで以上に教科・領域の連携を図りたい。そして、探究的な学習や課題解決学習については本校の生徒に今以上に組み込みたい学習であるので、総合的な学習の時間の授業時間のあり方について、全職員で再認識した上で指導にあたりたい。
- ④ 英会話科の授業については、「全職員で指導にあたる英会話科」「実践的コミュニケーション能力の育成」「グループディスカッション」は引き続き、指導の大きな柱として継続していきたい。2学期の取組は本校の研究テーマ「伝え合う力の育成」と大きな関連がある。英会話科だけでなく他教科・領域との関連を図りたい。そして、最終テーマはグローバル人材の育成であることを踏まえ、次のステップである英語でのディベートにつなげていきたい。
- ⑤ 家庭学習につながる授業を展開するとともに、これからの社会をたくましく生き抜くために、主体的に学ぶ姿勢が重要であることを生徒にも家庭にも発信していき、協力体制を築いていきたい。地道ではあるが「テスト取り組み表」の中での励ましや助言等を引き続き行う中で、家庭からの言葉をお願いするなどの取組を行う。また、家庭学習につながる授業の研究もあわせて進めていく。

(4) 生徒指導

〔達成状況〕

- ① 学校生活について、全生徒が「楽しい生活、ほぼ楽しい生活」と回答している。「学年に仲良くしている友だちがいますか」は全生徒が「多くいる（全員）」と回答している。「いじめや仲間はずれ」に関しても全生徒が「ない」と回答している。
- ② 一方、「困った時に相談できる友だちがいる」「困った時に相談できる先生がいる」に「いない」と回答している生徒が若干名いる。自力で対処するので『必要ない』と考えているのか、『必要だけれど本当にはいない』のかの実態を把握して対応する必要がある。
- ③ 「気持ち良いあいさつ」「場面にあった適切な言葉づかい」については教師・生徒とも概ね好評価である。「場面にあった適切な言葉づかい」については、前期集計時点より改善されているが、「もう一歩ではないか」という生徒記述もあるので、継続的な指導が必要である。

〔改善策〕

- ① 生徒全員が楽しい学校生活を送れていることは、非常に大切な事であるので、継続して、普段から生徒の話聞く姿勢を持ち、信頼関係を深めるとともに、生徒の情報収集のアンテナを高くしていきたい。「いじめ等」についても、現状に安心することなく、生徒の小さな変化を見逃さないなど、生徒理解に努めていきたい。また、道德教育の充実や居場所づくり・絆づくりにも努めていきたい。
- ② 「相談できる先生がいない」と回答した生徒が複数名いるが、2学期以降、相談体制を充実させ、全生徒が生活面や学習面について教師と面談や会話をしている。今後も日頃の教育活動を通しての信頼関係の構築を進めるとともに、教育相談が十分機能できるよう教師力を高めていきたい。また、継続して教育相談の機会を設定していきたい。
- ③ 適切でない言葉が発せられたときは、その場で指導する。また、お互いを認め合い、相手の気持ちを考えて発言したり行動したりできるよう指導を継続していく。また、「あいさつ」は芦安中の伝統的な誇りであることを踏まえて、生徒会としての取組も充実させる等、生徒の意識を高めていきたい。

(5) 学校生活全般（行事・部活動・生徒会活動・・・）

〔達成状況〕

- ① 2学期最大の学校行事「白峰祭」「芦安文化祭」は、生徒の意欲や計画的な取組、保護者並びに多くの関係者の御支援をいただき、成功に終わることができた。教職員アンケート「行事は生徒の人間力を育てるものとなっている」、生徒の「学校行事には意欲的に取り組みましたか」とも全員肯定的回答であった。特に、生徒の評価が高く、生徒自身が充実感や達成感が持てたことがわかる。
- ② 「部活動」・「太鼓」・「合唱活動」・「生徒会活動」についての生徒アンケートでは、肯定的評価のA・B評価の割合が非常に高い。意欲的に取り組んでいたと言える。ただ、「合唱活動」と「生徒会活動」にはやや否定的な回答(C評価)の生徒がそれぞれ2名、1名いる。少数の意見を汲み取り、これらの活動に全員が意欲的に取り組めるような配慮が必要である。
- ③ 教職員も、諸活動の生徒の取り組みに対する評価は全員が肯定的で、その成果も期待している。

〔改善策〕

- ① 学校行事については時間や手間もかかるが、生徒の自主性を育て、自己肯定感を高めるためにも、現状のようにP D C Aサイクルで「よりよい方向性」を模索していきたい。その都度、生徒の実態も変化していくので伝統を大切にしながらも柔軟に計画していきたい。
- ② 行事が終わった時の達成感を大切にしながらも、「良かった」で終わらず、「できたこと・できなかったこと」を生徒に意識させ、生徒自身の企画力や先見性を付けさせたい。

〔6〕家庭・地域との連携および小中の連携強化

〔達成状況〕

- ① 参観の機会である、授業参観・学校林の植樹・災害時引き渡し訓練・教育を語る会・全校登山の支援・PTA 奉仕作業・白峰祭・芦安文化祭等について、多くの保護者の参加・出席を得て、芦安中の特色や良さを理解していただいた。御支援に感謝すると同時に、学校に対する期待も大きいことを改めて実感した。これは「学校は授業や行事等において参観の機会を設けている。」に保護者全員が肯定的に評価していることからわかる。
- ② 学校と家庭の連携や連絡については、学級通信やHPで学校の今を随時発信した。また、学校便りを充実させ、学校の現状だけでなく、本校の教育の方向性を発信してきた。そして、保護者からの質問等にも回答してきた。その結果、「学校は、保護者の声を教育活動に活かしている。」について保護者全員が肯定的な評価であった。また、「学校からの通信や通知から、学校の様子がわかりますか。」についてもほぼ全員が肯定的な評価であった。1名、やや否定的（C評価）の評価があったが、通知が渡っていないのか・HP閲覧の環境なのか・内容の更なる改善が必要なのか検証しながら対応していきたい。
- ③ 「地域の行事・活動や組織との積極的な関わり」については、保護者も教職員もほぼ全員が肯定的にとらえておいる。今後もP D C Aサイクルで改善を図りながら同様な活動を続けていきたい。
- ④ 「P T A活動は、生徒の教育活動のために有機的に機能していますか」についても、ほぼ全員が肯定的な評価であった。過去に機能していないとの評価がいくつか寄せられた経過もあったが、他校にない小中合同のP T A活動が、今後も児童生徒の為に機能していくことを願っている。
- ⑤ 小中連携については、本年度も諸行事の合同実施並びに英会話科の取組を中心として行われ、小中学生の交流も深められてきた。また、小学生の前で中学生が発表することは、ほどよい緊張感があるとともに生徒の自尊感情の醸成に大きく関わっている。なお、行われた行事等は以下のとおり。

- ・小中合同避難訓練と引き渡し訓練
- ・教育を語る会
- ・小中連携会議（全教職員 2回）
- ・英会話科推進会議（関係教員 4回）
- ・小中連絡会、小中カ保連絡会（管理職等 10回）
- ・芦安文化祭・合同朝の会
- ・イングリッシュゲーム
- ・ハロウィンパーティ
- ・英語絵本の読み聞かせ
- ・合同合唱
- ・やきいも集会
- ・小中合同地区別集会（2回）

〔改善策〕

- ① 学校からの情報発信等の充実については今後も継続する。更に生徒一人一人の成長を願っての家庭との連絡がより密にできる環境を構築する。
- ② 個々の生徒の課題（家庭学習・生活習慣等）については、保護者との連絡を取り、それぞれの役割を意識しながら、学習習慣の定着や健全な生活習慣の育成を図っていく。
- ③ 今後も地域の人材の有効な活用や地域行事の参加を通して、地域社会との交流や協力体制に努め、生徒たちが芦安に誇りと自信を持って生活していけるよう、特色ある芦安中教育の基盤となる環境整備（地域人材バンク等）に着手する。そして、最終的に地域の課題に貢献できる生徒の育成につなげていきたい。
- ④ 児童生徒の交流や教職員同士の交流は大変充実しているので、小中での課題を共有し、9年間を見通した教育課程の編成に着手する。そして、互いに学習指導力や生徒指導力を高め合いながら芦安小中学校の教育に携わっていきたい。

（7）その他

- ① 4月から2学期終了時点まで、生徒理解、学習指導など見直し課題に対応してきた。その中で、生徒や保護者から高評価をいただいた。生徒の実態を把握し、全職員で課題解決しながら学校教育を推進していくことを継承していきたい。
- ② 芦安以外のところから多くの生徒が通ってきてくれていることは大変嬉しいことである。今後、目指す生徒像・学校像について共有できる場や語り合う場の設定が今まで以上に必要になってくる。PTA活動や学校応援団との連携を図りながら推進していきたい。